

情報共有

5枚

官邸班 ← フォレス対応チーム  
NISA班 (分室OK)

本店レク 議事メモ

日時：平成23年6月17日(金) 11:00~12:00

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約40名(カメラ5台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月17日 6:00 現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6/17 現在)
- ・ 福島第一原子力発電所2号機 原子炉建屋内空气中放射性物質濃度推移
- ・ セシウム除去装置概略系統図
- ・ セシウム吸着装置(キュリオン) ベッセルのラプチャーディスク

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. セシウム吸着塔のラプチャーディスクが水圧が高まって破れたとのことだが、これは故障なのか、設計通りの動きなのか。

A. 装置の内圧上昇による破損を防ぐために当該装置が動作したことについては設計通りであるが、ベッセルの弁が閉まって内圧が上昇した原因については現時点で不明である。ベッセル周辺での遮へい板設置作業の際に、誤って弁を閉めた可能性があると考えている。

Q. セシウム吸着塔のラプチャーディスクは水を逃がすことも可能なのか。

A. 液体、気体に係わらず、装置の内圧が上昇した際にラプチャーディスクが破れ、装置内の圧力を低減させる。

Q. 水処理システムは本日夜に本格稼働予定だが、試運転の時間を短縮するのか。

A. セシウム吸着塔の処理能力は既に確認しており、リークチェックおよび総合試験を実施した後、問題が無ければ本格稼働に移行する。

Q. 今後、工程表の見直しを行う予定だと思うが、作業員の被ばく管理についてはどのように実施していくのか。

A. 内部および外部被ばく線量の合計として250mSvを超えないように管理していきたい。現在、内部被ばくで100mSvを超えた作業員については現場作業をさせ

ない、また内部および外部被ばく線量の合計で 170mSv を超えた作業員については福島第一原子力発電所では作業せず福島第二原子力発電所バックオフィスで働く、等といった管理を行っている。ただ、チャコールフィルター付け忘れ、全面マスクを外して喫煙していた、等の問題が発生している経緯も踏まえ、作業員全体に再度周知徹底したい。併せて、交代要員の確保も並行して実施していきたい。

Q. セシウム吸着塔のラプチャーディスクの素材は。また大きさは。

A. 素材はステンレス。大きさは直径約 2～3 cm。

Q. セシウム吸着塔のラプチャーディスクの作動圧力は。

A. 0.9MPa。

Q. セシウム吸着塔のラプチャーディスクから水が出てきた際の受けが今回設置していなかったが、このような事態を想定していなかったのか。

A. 水素を逃がすためのベントラインにバックアップとして設置したものであり、基本的には気体が行くところである。今回は出入口の弁が閉まったことにより水漏れが発生しているが、通常弁が閉まるという事象は起こりえない。

Q. 閉まっていた出入口弁は、当該ベッセルの弁という理解でよいか。

A. 連続運転中に No1 ベッセルの入口弁または出口弁が閉まり、締め切り運転となった。その結果、No4 ベッセル内部の圧力が上昇し、No4 のラプチャーディスクが破損したものと推定している。

Q. セシウム吸着塔内で漏れた水はどこに溜まっていたのか。

A. スキッドの中に約 6 m<sup>3</sup>溜まっていた。

Q. 水処理システムの通しの試運転は当初 30～40 時間実施する予定であったが最終的には何時間に短縮されるのか。

A. 昨日の約 20 時間弱の組み合わせ運転を実施していること、装置単体ではアレバ除染装置は今朝より再起動しており、淡水化装置は昨日から運転継続していること、を考慮すると、部分的には連続運転していると考えている。今回のセシウム吸着塔の交換を行った部分の漏えい試験および単独運転確認ができれば、システムの本格稼働に移行できると考えている。

Q. スキッド内の汚染水を回収した後、漏れた水が溜まっていた場所の除染は必要なのか。

A. 拭き取り作業は必要であるが、それ以上の作業は不要である。

Q. 入口か出口の弁のどちらが不明とのことだが、出口弁が閉まっているとすると No1 スキッドのラプチャーディスクも破損するのではないか。

A. No1～No4 のスキッドは繋がっているので、No4 のラプチャーディスクが作動した段階で No1 スキッドの圧力も低下することになるため、現時点では出口か入口のどちらの弁が閉まっていたかは不明と判断している。

Q. 今回発生したセシウム吸着塔内での水漏れに関して、スキッドの補修は不要なのか。

A. スキッドはベッセルを固定するための枠であり、水漏れの影響はない。

Q. 水処理システムの耐久性評価は東電としても実施するのか。

A. セシウム吸着塔およびアレバ除染装置は、当社として初めて使用するものであるため、まずはキュリオン社、アレバ社での実績を確認した上で使用しているのが現状である。

Q. 今後水処理システムを稼働する上で、今回のように想定できない事が発生することもあり得るのか

A. あり得ると考えている。

Q. 福島第一原子力発電所の事故発災から初動の5日間の対応に関して、東電社内で纏めた資料があるとのことだが、今後公開する可能性はあるのか。

A. 時系列に関しては聞き取り調査を実施中であり、纏まり次第報告する予定であるが、公開時期については未定。

Q. 2号機建屋内のダスト濃度低下には、結露水の除去が影響しているとのことだが、詳しく教えて欲しい。

A. 明確に原因が特定できないが、昨日、排気ダクト内の結露水を除去したことでダスト濃度低下につながったのではないかと考えている。局所排風機の定格は 1,000m<sup>3</sup>/h であるが、結露水を除去したことで定格通り稼働したことが要因なのではないかと考えている。

Q. フィルターを乾かしたことが要因ということか。

A. フィルター入口にはヒーターがあり、乾燥させた空気をフィルターへ通している。結露水が排気ダクト側に溜まってきており、除去したことで流量が戻ったと考えている。

Q. 蒸発濃縮の装置の完成予定時期は。あわせてシステムはいつまで使う予定があるのか。

A. 蒸発濃縮装置は8月と10月に順次完成する予定。水処理システム全体の運用はおおよそ1年間、来年の夏頃までと考えている。

Q. 塩分の処理をするのは初めてか。

A. アレバ社・キュリオン社の装置で海水混じりの汚染水を処理するのは初めてと聞いている。

Q. そもそもラプチャーディスクは一定の加圧により壊れるものと理解していいか。

A. そのとおり。設定圧力に対して割れるような構造。一般的にリークがあっては困るような場所に設置することが多い。

Q. 今後、高濃度汚染水を入れた本格運転を開始するとのことだが、今回のように作業中に誤ってレバーが動作してしまったことに対する、再発防止の検討状況は。

A. 現時点で具体的な防止対策は出来ていないが、本格運転時においては、今回のように運転中に近傍で作業を行うことはまずないことから、作業に関連し弁を誤って閉めるようなことは無いと考えている。いずれにしても今回の事象に関しては引き続きよく確認していく必要があると考えている。

Q. 工程表については多少の修正があると思うが、具体的な修正内容は。

A. 詳しくは本日午後の会見で説明するが、5月以降に新たに判明した課題を盛り込む。具体的には作業員の作業環境改善に関することが入ってくる。

Q. ベントラインは主に水素などの気体を逃がすとのことだが、なぜこの中で水素が発生するのか。

A. 水の放射線分解により水素が発生する可能性がある。

Q. ラプチャーディスクの取り替えの目処は。

A. 本日午前中には取り替えを行う予定。午後には水張り・テストランを行う予定。

Q. 全体試運転と本格稼働の予定は。

A. 水張り、テストランに続きアレバ社除染装置とのインサービスを順次行っていく。およそ本日の夜までには本格運転に入れると考えている。

Q. ベッセルの周辺で遮蔽板の取り付け作業を行っていてとのことだが、具体的にどこに遮蔽板を取り付けていたのか。また、作業中に誤ってレバーを操作したと理解していいか。

A. 遮蔽板の設置箇所については確認させていただく。また、誤って操作したのか、何か器具がふれて弁が動いてしまったのかなどの詳細は確認していく。

Q. 水素が発生した場合はベント弁から逃がすのか。

A. その通り。

Q. 通常稼働時に弁の開閉はどのように実施するのか。

A. 手動による開閉になると思うが、確認させていただく。

Q. 南相馬の多くの住民が水素爆発時にも通常の生活をしており、内部被ばくを心配している。過去に数回、東電から説明会が開催されたという情報を得ているが、現時点では、どの程度の頻度で情報提供がなされているのか。

A. 説明の頻度については確認させていただく。なお、各自治体や避難所に対しては当社職員が情報提供させていただいていると聞いている。

Q. 1Fへの取材はどの段階になったら可能なのか。また、一定の制約の上での取材許可等はいただけないのか。

A. 誠に申し訳ないが、状況を見ながら判断させていただきたいと思う。

Q. ベッセルおよびスキッドから漏れだした6m<sup>3</sup>の水の回収はしたのか。

A. 回収しドレンファンネルに排出した。

Q. スキッドからの漏洩はないのか。

A. 今回はスキッドの中に水がたまっており、建屋側への漏水はない。スキッドそのものはベッセル4体を支えるものであり容器ではない。スキッドから漏水した場合は焼却工作建屋の床面に漏れ出て、止水工事の終わった建屋内に溜まっていくことになるのではないかと。

Q. 自動警報はどのような場合に動くのか。

A. 底部にセンサーが設置されており、水をかぶると漏えいを検知し反応するもの。

Q. 運転中ベントラインは空いているのか。

A. 閉まっている。

Q. ラプチャーディスク破壊の設定圧力0.9MPaであるが、そこまで水素が溜まると爆発する恐れはないのか。

A. 水素濃度の問題もあるため明確に申し上げることは難しいが、内圧が上がればラプチャーディスクが割れる設定である。また、この施設の中には着火源はないため爆発の心配はないのではないかと考えている。

以上